

2019 年度 事業計画書



学校法人 京都外国語大学

目 次

はじめに	1
I. 学校法人京都外国語大学事業計画	2
財務運営に係る事業計画の骨子	
重点取組	
1. 学園創立100周年に向けた将来構想「学園改革100年プラン（仮称）」の策定	
2. 高等教育制度関係法令制定・改正に伴う環境整備	
3. 人材育成に係る研修等制度の充実	
4. 学園施設整備計画「学園整備マスタープラン」の策定	
5. IT化の推進と働き方改革による業務革新	
II. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画	4
ミッション	
目的	
重点取組	
各部署取組	
各学科行事等	
III. 京都外大西高等学校事業計画	10
高校のビジョン	
方針	
重点取組	
主な取組内容	
IV. 京都外国語専門学校事業計画	12
専門学校のビジョン	
方針	
主な取組内容	
(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的	
.....	14



はじめに

周知のように、2019年度以降の私立学校、特に私立大学・短期大学を取り巻く情勢は、ますます厳しい局面にあると予測されている。少子化が進行する一方、「大学全入時代」を迎えている中で、大学間の競争が激しくなり、どの私立大学・短期大学でも、改革・改善・試行等に全力で取り組んでおり、各私立高等学校、専門学校においても、少子化や景気動向、国の政策等の影響を考慮しつつ、生徒・学生の確保などにも懸命な対策が執られている。

本学園は、平成29年度に学園創立70周年を迎え、改めて、他に類を見ない「平和実現への志」が織り込まれた建学の精神を堅持しながら、平成30年度には大学に国際貢献学部を開設し、先進的な教育プログラムへの取組を本格化させ、2020年4月に外国語学部ロシア語学科の開設を予定するなど、世界を見つめ、社会のニーズに応じていく学園として一層の充実を図っているところである。

各設置学校においては、国の私学関係予算などにも留意しながら、運営の根幹につながる入学志願者の安定的確保や財務基盤の維持等に最大限の力を注いで、教学部門・経営部門の運営にあたることとしている。



2019年度における学校法人京都外国語大学の事業計画について、次ページ以降に、

- I 「学校法人京都外国語大学事業計画」に続き、4つの設置学校について、
- II 「京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画」、
- III 「京都外大西高等学校事業計画」、
- IV 「京都外国語専門学校事業計画」の順で、その概要を簡潔に説明することとする。

【注】以下、適宜、京都外国語大学を「大学」、京都外国語短期大学を「短期大学」、両者に大学院を加えて「本学」、京都外大西高等学校を「高等学校」、京都外国語専門学校を「専門学校」などと表記している場合がある。



I. 学校法人京都外国語大学事業計画

【財務運営に係る事業計画の骨子】

学園の財務運営については、安定的な財務基盤の確立を基本としており、限られた財源の中で「事業の選択と集中」をより強化し、危機感とスピード感を持って経営改革に取組み、将来に亘っての安定的な財務基盤構築を目指しながら、教育研究活動と教育研究環境の持続的な充実を図る。

【重点取組】

1. 学園創立 100 周年に向けた将来構想「学園改革 100 年プラン（仮称）」の策定

平成 30 年 11 月 26 日に中央教育審議会から示された「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」やその他の政策による高等教育改革への提言等に対する本学園の将来構想を策定するために、委員会の設置等所要の整備を行う。

2. 高等教育制度関係法令制定・改正に伴う環境整備

改正学校教育法及び私立学校法並びに高等教育無償化等、高等教育制度に係る関係法令の制定・改正に対応するため、体制整備、規程制定・改正等所要の環境整備を行う。

3. 人材育成に係る研修等制度の充実

平成 28 年度に導入した教職員の評価制度では、評価の実施と同時に各自のキャリアを考えるキャリア申告・キャリア面談を組み入れており、能力向上の機会として活用し、人材育成の強化を図ることとしているが、組織を取り巻く環境が日々変化している中、組織が新たな価値を生み出すためには、職員一人一人が問題意識を持つことが大切である。

また、大学設置基準の一部が改正され、SD が義務化されたことなどから、以下の制度を整え、職員の自主的なスキルアップを支援していくとともに、日本私立学校振興・共済事業団、日本私立大学協会、大学コンソーシアム京都など大学関連団体への出向も検討する。

- ・職階別研修の実施
- ・大学職員として必要な研修会への参加
- ・業務に応じた資格取得に対する助成
- ・積極的なキャリアアップ（自己啓発）に対する助成

その他、人事評価制度も導入から 4 年目を迎えるため、制度の見直し等を行い、更なる制度の充実を図る。



4. 学園施設整備計画「学園整備マスタープラン」の策定

学生等の安全を早急に確保するべく、早期の耐震化完了を見据えた建設計画として「学園整備マスタープラン」を策定する。

また、施設・設備修繕に関しては、法人全体として重点的な整備を必要とする取組（老朽化対策、空調システム・受電設備の更新）、公的施設として必要な取組（省エネ対策・安全対策）を優先的に実施する。2019 年度は空調機器改善計画に基づく改修工事、安全対策としての防犯カメラ増設を行うほか、学修環境向上のための工事を実施する予定である。

5. IT 化の推進と働き方改革による業務革新

学校法人京都外国語大学情報化推進本部において平成 27 年 11 月に策定した、学園 IT 化マスタープランに従い、以下の計画を実施する。

- ①新人事給与システムを導入し、給与計算とともに人事情報のマスター化を行う
- ②業務自動化ツールなどを活用し、働き方改革に繋げる



Ⅱ. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画

【ミッション】

大学・短期大学の建学の精神は「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」である。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、本学は外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」で、本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。

この教育理念を達成するため、

- ① 確かな日本語力と実践的な外国語運用力
- ② 社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び外国の文化の理解に基づく多文化共生実現力

の3つの力を備えた人材を育成する。



【目的】

1. 京都外国語大学

外国語学部は専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成する。

国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成する。

2. 京都外国語大学大学院

学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、文化の進展に寄与する。

3. 京都外国語短期大学

文化の一起因ともいえるべき英語を教授研究し、かつそれを根底とする専門職業に重きを置く大学教育と国際活動に必要な教養を施し、国家社会に有用なる人物を育成する。

これらの目的を達成するため、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の3つのポリシーを定め、教育研究を行っている。3つのポリシー及び各学科等の目的については、末尾14頁以降参照。



【重点取組】

1. 外国語学部ロシア語学科の設置申請と 2020 年 4 月開設に向けた準備
 - ①学科共同研究室及び教員研究室の設置、改修（総務部）
 - ②学力の高い志願者を確保するための広報強化（広報室）
 - ③ロシア語学科の留学制度の整備（国際部）
 - ④外国語学部、短期大学及び留学生別科の開講科目の精査や教育課程の整備及びシステム対応の準備、ロシア語の教免認可申請の準備（教務部）
 - ⑤ロシア語学科図書を一括配架するための地下書庫グループ閲覧室の書架設置、ロシア語学科のカリキュラムに対応した蔵書構成の充実（附属図書館）
 - ⑥ロシア語を学ぶことができる高校との連携強化（入試センター）

2. コミュニティエンゲージメント活動の推進
 - ①従来の留学プログラムに加えて、インターンシップ・ボランティア活動・コミュニティエンゲージメント活動を現地で行う新たな留学プログラムの整備（国際部）
 - ②コミュニティエンゲージメントプログラムの運営環境と教学内容の整備、学生を送り出した際の安全管理、危機管理体制の構築（コミュニティエンゲージメントセンター）

3. 第 2 期 5 ヶ年計画策定と実行

今日の高等教育における質保証の動向を踏まえ、建学の精神に基づく国内外への情報の発信と次世代リーダーの養成を図り、社会的な説明責任の要請等に応じていく観点から、大学・短期大学にあつては、平成 25 年度、学長のもとに当該策定委員会等を設け、本学の教育理念及びその具体的な教育目標等を念頭に所要の検討を行い、大学及び短期大学の「5 ヶ年計画」（計画期間：平成 25 年度から平成 29 年度）を中期将来計画として定めた。

平成 30 年度からは第 2 期 5 ヶ年計画（計画期間：平成 30 年度から平成 34 年度）を策定、以下の 4 つのテーマに沿った計画の完遂を図る。

《4 つのテーマ》

- I 教育システム、教育体制の再構築
- II 学習支援体制・キャンパスライフ環境の充実
- III ガバナンス改革・マネジメント改革
- IV 研究・地域貢献活動の充実



【各部署取組】

1. 総合企画室

- ・学長の意味決定のサポート役として、将来構想の確立や大学改革マスタープランの策定を行う。
- ・戦略企画グループでは、第2期「5ヵ年計画」の進捗管理・調整、補助金の獲得、学長の特命事項に関する業務（ロシア語学科設置、外国語学部再編等）を行う。
- ・点検評価グループでは、自己点検・評価システム（制度）を実施する。
- ・IR推進グループでは第2期「5ヵ年計画」推進のためのデータ分析、各部署における諸データ管理の現状把握、IRの普及・活用を推進する。

2. 総務部

- ・教育研究環境・生活環境等の健全化を図るため、学内施設の整備・点検を行い安心安全の確保に努める。
- ・国際貢献学部の履行状況、AC教員審査等及びロシア語学科設置に伴う申請書類を作成し、文部科学省に提出する。
- ・学生支援について後援会と協議を行い、より一層の充実を図る。

3. 広報室

- ・国際貢献学部への志願者増と学力の高い入学者の確保のため、大学HP、進学サイト、進学情報誌、DMでの広報を強化する。
- ・ホームページのトップページ改定など大学のブランド力確立と情報発信力を強化する。

4. 教務部

- ・2021年度または2022年度の外国語学部教育課程の見直しに向けて、準備を進める。
- ・教務関係システム関連業務の効率化を進め、学生に対するサービスの向上を目指す。
- ・現行の教免に必要な科目及び免許状の種類を見直す。
- ・保護者用ポータルサイトの構築。

5. 学生部

- ・学生の課外活動等に関わる組織的な改善・指導および見直し。
- ・日本学生支援機構・外国人留学生対象・本学独自といった各種奨学金等の事務取扱い全般に関する検討。
- ・配慮が必要な学生への支援、学生が相談しやすい環境・雰囲気づくり、健全な学生生活が送れるようサポート体制を強化し健康サポートセンターの更なる充実を図る。



6. 国際部

- ・グローバル人材育成のため、従来の語学中心の留学に加え、アクティブラーニング型の留学制度を整備する。
- ・産学官連携や官民協働留学支援制度（トビタテ留学 J A P A N）等の有効利用、採択率を向上させる。
- ・留学生と日本人学生が共用できる宿舎の環境整備を目指す。
- ・外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ環境を整備する。
- ・海外におけるインターンシップ型の留学先を開拓したうえで、制度化を目指す。

7. キャリアセンター

- ・初年次から、継続性を持った内容の就職ガイダンスを段階的に開催する。
- ・学生の就職先として適切な企業を開拓、訪問し、学内における合同・個別説明会への誘致や、学校推薦枠の獲得に尽力し、企業との関係性を強化する。
- ・履歴書・エントリーシート作成、面接対策、グループディスカッション対策、筆記試験対策など、多様化する採用選考に対応できるスキルを獲得できるように、各種講座やセミナーを実施する。
- ・留学生や障害学生等、固有なニーズを持つ学生に特化したセミナーを開催するとともに国内外の企業から求人獲得を行い、就職活動を支援する。
- ・職員の国家資格キャリアコンサルタントの資格取得を積極的に奨励する。

8. 入試センター

- ・教科の試験を課さない入学試験（指定校・AO 入試等）において推薦・出願資格を見直し、入試制度による入学者の英語力格差を解消する。
- ・大学センター入試の新テスト移行に備え、語学検定試験結果の点数化を整備し、本学独自の語学検定試験利用型入試を確立する。
- ・AO入試においてプレゼンテーション型選抜方式を拡大し、高大接続を推進する。
- ・国際貢献学部グローバルスタディーズ学科の9月入学に向けての募集と入試を行い、海外からの外国人留学生の受入を拡大する。
- ・外国人留学生だけでなく外国籍を有する学生も出願できるよう出願資格を見直し、国内募集を強化する。

9. コミュニティ・エンゲージメントセンター

- ・コミュニティエンゲージメントプログラムの新規受け入れ先開拓及びミニ・プログラムの開発を行う。
- ・2019年ラグビー・ワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた学生通訳ボランティア活動の運営管理を行う。



10. ランゲージセンター

- ・国際貢献学部グローバルスタディーズ学科の学生や本学職員の英語運用能力強化に向けて、また、留学生や外国人教員の日本語運用能力強化に向け語学サポートを行う。
- ・夏期・春期集中英語・日本語講座の開催やTOEFLiBTおよびIELTS検定対策講座と説明会、検定試験を実施する。また、各語学検定試験(学科主催)と対策講座への協力を行う。
- ・ラーニングコモンズ運用について、4号館の利用に関する実態調査を行うとともに、エリア及びイベントの情報提供・共有、個人学習の支援の環境を整備する。
- ・言語教育を中心とした研究活動とその発信。
- ・外国語自律学習支援室NINJAの活動充実。

11. 附属図書館

- ・業務の三要素(①資料の収集、②資料の整理・蓄積、③資料の提供)を円滑に推進するため、学内の研究と教育の内容に添って資料収集を進め、可能な限り最新機器を用いた整理・蓄積と提供を行い、利用者へのサービス向上を目指す。
- ・蔵書構成の特徴を生かして、稀覯書資料のデジタル化や主題別書誌データベースの作成、展示会の開催、図書館フォーラムの開催など各種の「特徴ある図書館活動」を展開して館報とホームページ上で文化的な発信をし、大学全体のブランド力の強化につなげる。
- ・京都国連寄託図書館の円滑な運営と情報発信を充実させる。

12. 国際言語平和研究所

- ・科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得に向けて積極的な施策を展開する。
- ・不正行為を事前に防止し適正な研究活動を推進するため、研究者に求められる倫理規範の修得を目的としたコンプライアンス教育を実施する。
- ・『研究論叢』、『COSMICA』を発行するとともに、2学部体制となった本学の研究発信力を高める工夫を行う。
- ・学内出版助成事業として、単著・共者を含む学術的価値の高い図書・論文またはその翻訳の刊行を2~3件採択する。
- ・国際言語文化学会充実のため、引き続き年次大会、研究会の開催、研究報告会、研究成果の公表等、質の高い研究活動が実施できる会の運営に努める。
- ・言語文化研究室、国際問題研究室、国際文化資料館による公開講演会等の行事の実施。
- ・国際文化資料館において、豊雲記念館からの寄贈品等を含めた資料の公開・展示及び教育・研究への活用。



13. 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所

- ・研究活動として、学術研究振興資金による研究を遂行する。また、ラテンアメリカ地域に関する研究講座や研究会・学術講演会などの開催や研究論集「紀要」を発行する。
- ・教育啓蒙活動として、ラテンアメリカ地域に関する教養講座や講演会・展示会などの開催、研究所ニューズレターの発行を行う。その他、京都ラテンアメリカ文化協会の活動に協力する。

【各学科行事等】

本学のキャンパス国際化推進の一環として取り組んでいるナショナル・ウィークは、2019年度に9年目を迎えることから、これまでの経験を活かしながら開催方法等を再検討して取り組む。また定期的に行っている各学科主催の弁論大会や各種講演会等も同様に、学生・教職員が協力し、できるだけ多くの市民にも参加してもらえるよう工夫も凝らし、大学・短期大学の良さをPRしていく考えである。



Ⅲ. 京都外大西高等学校事業計画

【高校のビジョン】

建学の精神「不撓不屈」に則った総合的人間育成

本校の建学の精神は、本学園創立者の出身地、会津若松の藩校「日新館」の教育において、「不撓不屈」の精神をもって断固として困難に立ち向かう「ならぬことはならぬ」の教えが貫かれていたことに由来しており、「なし得ること、なさねばならぬことはたとえどのような困難をともしなう場合であっても、不撓不屈の精神をもって断固として貫徹せよ」との教えである。本校での様々な活動を通じ、複雑な現代社会をこの「不撓不屈」の精神で「強く、正しく、明るく」生き抜く生徒を育成する。

【方針】

建学の精神「不撓不屈」・校訓「強く 正しく 明るく」を人間育成の根本として、生徒の今日のグローバル社会、情報化社会を超えたソサイエティ5.0と呼ばれるところの時代、容易に先が見えず変化の激しい未来社会を生きる力を育む。また、京都外国語大学との連携を深めながら、英語教育の充実、高大接続教育改革、大学入試改革への対応に努め、教員の資質向上に向けた研修により、教育力の改善・強化を目指す。

【重点取組】

1. 経営改善計画の着実な実行。
2. 本館及び体育館等の建替に向けた計画。
3. 知識の獲得にとどまることのない、新しい教育の時代に即応したアクティブラーニングの推進及び思考力、判断力、表現力を備えた幅広い教養教育。

【主な取組内容】

1. 2019年式カリキュラムの本格運用（カリキュラムスリム化の第1段階）
2019年度入学生から全てのコースで教科科目の再検討を実施、進学指導強化を図りながら生徒の受験科目を考慮し、少人数開講となりやすい選択（必修及び自由）科目を中心に見直しを行う。
2. 2022年度式新学習指導要領に対応したカリキュラム構築への取組
2022年度入学生からの教育課程改定に伴い、上記1のカリキュラム変更も考慮しながら、授業内容の見直しやアクティブ・ラーニングの実施、ICT教育の研究を行う。
併せて、2022年度の新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実を図るために教科・科目の再編研究を進める。



3. 施設設備の改修

- ①本館及び体育館等の建替計画策定
- ②遠隔地施設改修計画策定



IV. 京都外国語専門学校事業計画

【専門学校ビジョン】

平成10年に「アジアを学ぶ」をテーマに誕生した本校は、京都外国語大学のグループ校として、建学の精神「言語を通して世界の平和を」を掲げ、実践的で堪能な外国語能力の養成を図り、その能力を基盤として、多様な社会の要請に即応し得る専門的技能を習得させるとともに、常に人格の陶冶に努め、広く海外文化に通じ、幅広い国際的感覚と国際社会人としての豊かな人間性を身につけた、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。

この目的を達成するため、

- ① 専攻語の確かな運用力
- ② 豊かな人間性及び教養
- ③ 発信力・コミュニケーション能力

を備えた人材を育成する。

【方針】

安定した財務基盤の確立、学生確保、教育の質向上のための教育内容の点検整備、並びに教育環境の充実を図る。

具体的方針：

- ① 入学定員200名の確保
- ② 在校生のサポート体制を充実し、退学率5%減を目指す。
- ③ 卒業生の希望進路達成率100%
- ④ グループ内の他部門との連携強化

【主な取組内容】

1. 情報公開に向けた取組

高等教育無償化の制度新設に伴い、機関要件の認定に自己点検評価の実施、情報公開が盛り込まれるなど、専修学校の質保証が求められているところである。本校でも、「専修学校における学校評価のガイドライン」に沿って、自己評価、学校関係者評価を経て、第三者評価に向けた項目の点検・整備のために、教育活動、財務・経営情報等の公開に向けた取り組みを行う。

2. 教育内容の整備

各学科専攻語の検定試験などを利用して客観的評価を行いながら、卒業までの2年間で最大限の語学力をつけるため、教育内容の整備を行う。また、学生生活の充実のために、カウンセリングなどを活用し、学生のサポート体制の強化を推進する。



3. 卒業時希望進路達成率100%に向けての取組

今年度より京都外国語大学国際貢献学部の編入学が始まるが、当該学部への編入学をスムーズに行うことができるよう、編入条件（受講科目・認定科目等）に関する協議を行い、それらに対応したカリキュラムの見直しを実施する。

4. IT化推進

IT化推進に向けて、以下の取組を行う。

- ①学籍管理システムの更新に向けて検討を開始する。
- ②校地内にWifi環境を構築する。
- ③教室内でノートPCで授業活用が出来るように環境整備する。

5. 海外協定校との連携強化

学生募集に繋がる魅力づくりとして、海外協定校との連携を強化し、韓国留学コースなどの設定の検討を継続する。

6. 各種規程の整備及び啓蒙活動の実施

個人情報規程、ハラスメント規程の見直しを行うとともに、働き方改革法案など就業や教育に関する関連法案の学習会や研修会を実施し教職員の認識を高める。

7. 施設設備の改修

- ①正門の門扉の改修工事



3 つのポリシー

京都外国語大学
外国語学部
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）
<p>外国語学部は専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。</p> <p>① 構想するために必要な力 私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。</p> <p>② 実践するために必要な力 自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。</p> <p>③ 協働するために必要な力 立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者とともに実現していく（多文化共生力）ことができる。</p>
カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）
<p>外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。</p> <p>② 専攻語教育の必修科目において専攻言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置する。定期的に学内統一試験や外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。</p> <p>③ 専攻語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。</p> <p>④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。</p> <p>⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。</p> <p>② 必修科目における外国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。</p> <p>③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。</p> <p>【学習成果】</p> <p>① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。</p> <p>② 専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力 専攻する言語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。</p>



③ 世界が抱える諸問題の理解

専攻言語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

本学部では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② 語学の到達度を測る資格試験や統一試験におけるスコア
- ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は

https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html#_02

に掲載。

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会で十分に通用する実践的な外国語運用力を身につけるとともに、専攻言語圏及び自国の文化・歴史・政治・経済などに関する専門知識、そして、外国語運用力を活かすための幅広い知識と豊かな教養を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- ② 実践的な外国語運用力の修得に意欲を持っている人
- ③ 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人
- ④ 外国語を学ぶ上での適性と基礎学力を有する人

京都外国語大学

国際貢献学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成することを目的としている。

その実現のために、世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことができる人材を養成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、専門科目に加えて必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に大別している。

【教育内容】

- ① 専門科目のコア科目では、本学の建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」を理解し、学科で学ぶ基本的姿勢を身につけ、関連する Community Engagement を通して理論と実践の合一を目指す。（2 学科共通）
- ②-1 専門科目の国際協力コース科目では、世界平和・世界秩序に関する幅広い知識と、人類に共通する地球規模の課題解決に貢献するために必要な実務的な能力を一つの学問的な体系として総合的に培い、グローバルビジネスコース科目では、経済・社会の発展と人類普遍の価値目標である「豊かさ」に関する知識及びビジネスを通して国際社会に貢献するために必要な実務能力を一つの学問的な体系として総合的に培う。また、コース共通科目では、国際協力とグローバルビジネスの両コースに関連する専門科目を通して、コース選択への動機づけと興味を持つ分野を深く研究する。（グローバルスタディーズ学科）
- ②-2 専門科目の観光政策コース科目では、地域が持つ固有の価値を尊重し、地域経済と地域文化を融合させて地域の発展を可能とするために必要な知識と実務的な能力を一つの学問的な体系として総合的に培い、観光ビジネスコース科目では、観光ビジネスで必要な幅広い知識と基礎理論、即戦力となる実務能力を一つの学問的な体系として総合的に培う。また、コース共通科目では、観光政策と観光ビジネスの両コースに関連する専門科目を選択し、コース選択への動機づけと興味を持つ分野を深く研究する。（グ



ローバル観光学科)

- ③ グローバル社会で活動するための英語運用能力と第 2・第 3 外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。(2 学科共通)
- ④ 教養科目では、実践的な教養教育をめざすとともに、広く国際人として活躍し得る幅広い知識と公正での確な判断力を身につけることができる。(2 学科共通)
- ⑤ 日本学インスティテュート科目では、日本独自の社会・制度・文化・価値観等について、外国人留学生と日本語を母語とする学生がともに英語で学び、日本に対する理解力と発信力を高める。(2 学科共通)

【教育方法】

- ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。(2 学科共通)
- ②-1 多文化環境の下で学び、異文化間コミュニケーション力を身につけるため、専門科目の授業はすべて英語で行う。(グローバルスタディーズ学科)
- ②-2 専門科目は国際的な観光文化都市である京都の立地条件を活かして、企業や地域社会と連携した「実学的・実践的な教育」を行う。(グローバル観光学科)
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。(2 学科共通)

【学習成果】

- ① 主体的・自律的に課題に取り組む力
自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができる。
- ②-1 問題発見力・解決力
社会の急速な変化の中において問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動することができる。(グローバルスタディーズ学科)
- ②-2 問題発見力・解決力
地域固有の価値を尊重しつつ、地域経済と地域文化を融合させて地域の発展に資する新たな価値を創造することができる。(グローバル観光学科)
- ③ 多文化共生力
深い異文化理解力と高度なコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、国際社会や組織、コミュニティに貢献することができる。
- ④ 国際協力ないしグローバルビジネスに関する専門的学際的知識・技能の活用力
経済学、経営学、法学、社会学、文学といった異なる学問分野の専門的学際的知識・技能を活用し、課題を解決する。(グローバルコスタディーズ学科)
- ④ 観光政策ないし観光ビジネスに関する専門的学際的知識・技能の活用力
観光学、政策科学、経営学、社会学、文学といった異なる学問分野の専門的学際的知識・技能を活用し、課題を解決することができる。(グローバル観光学科)

【評価】(2 学科共通)

卒業認定と学位授与の方針に従い、以下のとおりに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② Community Engagement の活動内容や成果報告
- ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告

アドミッション・ポリシー (入学者受入に関する方針)

国際社会に貢献することに強い意欲を持つ人材を求める。

グローバルスタディーズ学科

【求める学生像】

- ① 英語をはじめとする外国語の高い能力を有し、さらにその能力の向上をめざす人
- ② 何事も主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人
- ③ 外国語のコミュニケーション能力を駆使して、積極的に国際理解を推進しようとする人
- ④ 国際社会のさまざまな諸問題に興味や関心を持ち、国際協力に従事したいと考えている人
- ⑤ 国際ビジネスの専門的知識を身につけて、国際社会で活躍したいと考えている人

グローバル観光学科

【求める人材像】



- ① 何事にも主体的に、積極的に取り組む意思のある人
- ② 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人
- ③ 観光を通して異文化や自文化を理解するとともに、実践的な外国語のコミュニケーション能力を養うことによって、国内外のグローバルな環境で活躍したい人
- ④ 観光を通して地域の活性化に貢献したい人
- ⑤ 国際観光文化都市・京都をはじめ国内外の観光資源に興味を持ち、観光政策を立案・実践したい人

京都外国語大学

大学院外国語研究科

ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

外国語学研究科は、外国語学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、言語を通して世界の平和に貢献することを目的としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

外国語学研究科は、言語文化と言語教育の専門分野に関する研究コース（領域）を有することを活かし、専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、その基礎となる豊かな学識を修得させることを目的としている。

博士前期課程は、言語コミュニケーションに重点を置いた言語と文化の学際的、総合的研究、並びにその応用としての言語教育・学習方法論の研究を行うことをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

博士後期課程は、世界の諸地域における人間の営みの中核をなす文化を、言語を通して根源的に解明できる人材を育成すること、また多分野に通じた創造性ある言語教育者を育成することをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、新しい知の体系の創造と新しい時代を担うことのできる幅広い視野と柔軟な思考を備え、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

博士前期課程

- ① グローバル化する国際社会に対応できる高度な専門職をめざす人
- ② 教育機関で専門的な指導ができる教育者をめざす人
- ③ 言語文化・言語教育の学術研究分野で専門的研究者をめざす人

博士後期課程

- ① 国際的視点に立った研究を行い、その成果を人類に広く還元し、社会に大きく貢献する研究者をめざす人
- ② 従来の理論や常識を越える独自の研究をめざす人

京都外国語短期大学

キャリア英語科

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

キャリア英語科は英語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。

その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。



【教育内容】

- ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。
- ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。
- ③ 英語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。
- ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。
- ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画内に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。

【教育方法】

- ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
- ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学習成果】

- ① 語学力の育成
大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。
- ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力
英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。
- ③ 世界が抱える諸問題の理解
英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

キャリア英語科では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② 語学の到達度を測る資格試験におけるスコア

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、キャリアを形成する上で十分な英語コミュニケーション力と、ビジネスの分野に必要な知識・技能を修得して、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- ② 英語の実践的な運用力の修得に意欲を持っている人
- ③ 幅広い知識とビジネススキルの修得に意欲を持っている人
- ④ 観光文化・観光ビジネスの分野に興味や関心を持っている人
- ⑤ 学力を活かして4年制大学に編入学を望む人
- ⑥ 英語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人



【京都外国語大学 学部学科の目的】

外国語学部	
専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域・文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
英米語学科	専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
スペイン語学科	専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
フランス語学科	専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ドイツ語学科	専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ブラジルポルトガル語学科	専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
中国語学科	専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
日本語学科	専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
イタリア語学科	専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
国際貢献学部	
世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことによってグローバル社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。	



グローバルスタディーズ学科	地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、新たな価値を創造する人材を育成することを目的とする。
グローバル観光学科	観光に関するグローバルかつ総合的な観点から、様々な地域の課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。

【京都外国語大学大学院 外国語学研究科 課程の目的】

前期課程	
広い視野に立って精深な学識を授け、言語文化及び実践言語教育の専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化コース	英米、ヨーロッパ・ラテンアメリカ、東アジアの3地域を軸にした言語・文化の専門的知識や国際社会に貢献できる専門的能力を修得することを目的とする。
実践言語教育コース	創造的かつ柔軟な対応力を備えた英語教育又は日本語教育のスペシャリストとしての能力を修得することを目的とする。
後期課程	
言語文化及び言語教育の専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化領域	最新の学術研究の探求を通じた言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力を修得することを目的とする。
言語教育領域	英語教育及び日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力を修得することを目的とする。

【京都外国語短期大学 学科の目的】

キャリア英語科	
アカデミックとビジネスの2つのコースを有することを活かし、実践的な英語力と国際活動に必要な教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
アカデミックコース	グローバル化時代の担い手として通用する発信型国際人に求められる能力を修得することを目的とする。
ビジネスコース	職場で働くための基本能力、表現力、社会人基礎力、国際人としての教養等を修得することを目的とする。